

No.	質問	回答
1	女性にマンモグラフィの受診を勧めても「痛い」という反応が多くなかなか難しいことがあります。最新の機械はかなり改善されているそうですが、ぜひ比較的なところを教えてください。	新しいマンモグラフィ装置には撮影時の痛みを軽減する機能(診断に影響しない程度で圧迫をゆるめます)がついており、実際にこれまでと比較し痛みが少なかったといった声を聞いています。
2	近親者に乳がん患者がいる場合、何歳からどのくらいの頻度で検査を受けると良いでしょうか。	基本的には自治体検診が始まる40歳からが良いと考えます。それまでは自己検診していただき、気になる症状があれば受診してください。心配な方は任意型検診(自費による検診)を受けることも可能です。
3	乳がん検診の料金は9,900円とのことですが、細胞診・針生検を行う場合、更に料金の支払いが必要になりますか。	必要です。検診で要精密検査となった場合、一度乳腺科外来を受診していただき、そこでその後の方針が決まります。保険診療になりますので負担割合に応じたお支払いになります。
4	乳房のチェック方法は、月経前・中・後では、いつが変化を見つけやすい、などありますか。	月経前や月経中はむくみなどにより乳腺が張ってしこりを見つけにくかったり痛みが出ることもありますので、月経後にチェックしていただくのが良いと思われます。
5	しこりは、だいたいの大きさがありますか。	触診で自覚できるサイズとしては1~2cm程度です。初期の乳がんではしこりを作らないことも多いので、自己検診に加え、マンモグラフィや超音波検査を用いた乳がん検診も受けていただければ、と考えます。
6	県中の乳がん検診はマンモグラフィと超音波検査ですが、希望した場合、視触診もできますか。	乳がん検診では視触診は行わないこととなっています。検診で要精密検査となり乳腺科外来を受診された際には、視触診をします。
7	市で実施しているマンモグラフィは50歳以上は1方向になりますが、40歳以上の2方向より精密度が下がりますか。	年齢と共に乳腺組織の密度が下がるため、50歳以上では1方向でも病変を見つけにくくなることはあまりないと考えられています。(ただし、高濃度乳房の方などは超音波検査も併用するとより詳しい検査が可能となります)
8	近藤誠の本で、検診を受けるべからず手術を受けない方がよいと書いてあった。素人は迷う。どちらがどうなのか。	検診による早期発見や手術を含めた適切な治療は、病気を治すうえで重要であると考えられています。
9	乳がん検診の受診率が欧米と比べ低い要因はなんですか。	欧米との保険システムの違いに加え、「自分はがんにならないと思っている」、「がんと診断されるのが怖い」などといった考え方があるようです。国民性といえばそれまでですが、病気に対する意識を変えていく必要があるかもしれません。
10	20代なのですが、検査は受けた方が良いでしょうか。また、どれくらいの間隔で受けたら良いですか。	20代であれば基本的には自己検診が良いと考えます。心配な方は任意型検診(自費による検診)を受けることも可能です。
11	40歳までの人の検診は必要ないのでしょうか。	自己検診は必要と考えます。心配な方は任意型検診(自費による検診)を受けることも可能です。

No.	質問	回答
12	乳がんを予防する生活習慣(食など)を教えてください。	特定の食品等で予防することは難しいですが、喫煙や飲酒など、乳がんの発症リスクが上がることが明らかな生活習慣を避けていただくことが重要と考えます。
13	検診でのう胞に分泌物がたまっていると言われましたが、う胞がしやすい人や防ぐ方法、乳がんになりやすいかを知りたいです。	乳腺のう胞は、35～50歳の発症が多く、ホルモンバランスの乱れがきっかけに生じると考えられていますが、それを防ぐ方法は分かっていません。基本的にはがん化する心配はありません。ただし、う胞内にしこりがある場合はう胞内がんの可能性があるので、細胞診・針生検が必要となることもあります。